

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想概論	近代哲学史(4)懐疑と 観念論	2	城戸 淳	3	火	3	1
哲学思想概論	古代哲学史(前篇)	2	荻原 理	3	木	2	2
哲学思想概論	近代哲学史(5) ライプ ニッツとカント	2	城戸 淳	4	火	3	3
哲学思想概論	古代哲学史(後篇)	2	荻原 理	4	木	2	4
現代哲学概論	現代哲学の基礎(1)分 析哲学と現象学	2	佐藤 駿	3	木	5	5
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題 (1)	2	直江 清隆	3	金	2	6
現代哲学概論	現代哲学の基礎(2)プ ラグマティズムを中心に	2	佐藤 駿	4	木	5	7
現代哲学概論	現代哲学の諸問題(2)	2	直江 清隆	4	金	2	8
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	荻原 理	3	水	3	9
哲学思想基礎講読	自由意志と決定論—— E.Tugendhatの人間学 (1)	2	小松恵一	3	木	3	10
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	直江 清隆・城戸 淳	4	水	3	11
哲学思想基礎講読	自由意志と決定論—— E.Tugendhatの人間学 (2)	2	小松恵一	4	木	3	12
哲学思想各論	比較哲学入門	2	城戸 淳・直江 清隆・荻原 理	5	火	5	13
哲学思想各論	こころと意識の分析哲 学	2	伊藤 春樹	5	木	4	14
哲学思想各論	ニーチェの「自然主義」	2	齋藤 直樹	6	火	4	15
哲学思想各論	精神の生態学—生態学 的アプローチの身体 論・生命論・環境論	2	染谷 昌義	集中(5)			16
生命環境倫理学各論	生命環境倫理の諸問 題	2	直江 清隆	5	金	3	18

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
哲学思想演習	プラトン『パルメニデス』 を読む(1)	2	荻原 理	5	月	3	19
哲学思想演習	クワイン「二つのドグマ」 とその周辺	2	荻原 理	5	月	4	20
哲学思想演習	アーレント『革命について』第6章を読む	2	森 一郎	5	火	4	21
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	5	水	5	22
哲学思想演習	フッサール「改造論文」 を読む	2	直江 清隆	5	金	5	23
哲学思想演習	プラトン『パルメニデス』 を読む(2)	2	荻原 理	6	月	3	24
哲学思想演習	因果性の哲学入門	2	直江 清隆	6	火	2	25
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』 研究	2	城戸 淳	6	水	5	26
哲学思想演習	自由と行為の諸問題	2	城戸 淳	6	木	2	27
哲学思想演習	フッサール「改造論文」 を読む	2	直江 清隆	6	金	5	28
生命環境倫理学演習	エイジングの時代の医療・技術	2	直江 清隆	6	金	3	29

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB32303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近代哲学史 (4) 懐疑と観念論

2. Course Title (授業題目)：

Modern Philosophy 4: Skepsis and Idealism

3. 授業の目的と概要：

16世紀のヨーロッパは、古代のピュロン主義の復活もあり、懐疑的な精神的危機に陥っていた。デカルトの哲学はこの危機の正面突破の試みであったが、その「観念」のモデルはかえって、外的世界を主観的な観念へと貶める「観念論」に門戸を開くことになった。その後の近代哲学は、ヒュームの「懐疑的解決」にせよ、カントの「観念論論駁」にせよ、このデカルト的な危機に対する応答の試みである。懐疑と観念論というオブセッションは、近代哲学を識別する固有の刻印だとさえ言ってもよい。この講義は、この問題圏を辿って、近代哲学の諸局面を論じてゆく。

4. 学習の到達目標：

懐疑と観念論の近代哲学史の概要を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 哲学と懐疑——1562年、古代懐疑論の再発見
2. モンテーニュと新ピュロン主義
3. デカルト (1) ——普遍的懐疑とコギト
4. デカルト (2) ——神の存在証明とその循環
5. スピノザのデカルト批判
6. バークリーの唯物論論駁
7. ヒューム (1) ——因果、人格、物体
8. ヒューム (2) ——懐疑的方法と人間本性
9. リード——イギリス経験論の帰趨と常識への回帰
10. カント (1) ——懐疑的観念論と超越論的観念論
11. カント (2) ——超越論的観念論をめぐる批判と応答
12. カント (3) ——観念論論駁の戦略
13. ヘーゲル——理性と弁証法
14. 補論 根拠の哲学——自由と無底
15. 現代哲学におけるカントとヘーゲル

6. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

対訳形式のプリントを配付して進める。その他の参考書などは授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で一部を紹介した哲学書を手に取り、読んでみてください。

9. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：荻原 理 (准教授)

講義コード：LB34201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古代哲学史 (前篇)

2. Course Title (授業題目)：

History of Ancient Philosophy (Part 1)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者（ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む）の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもら（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう（数名まで）。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. 学習の到達目標：

- ・ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派 (1)：万物のアルケの探究

タレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス

2. ミレトス学派 (2)：アナクシマン드로スの断片

クセノファネス：神を擬人的に思い描くことへの批判

3. ピュタゴラス：万物は数から成る、魂は輪廻する

ヘラクレイトス：反対者は一致する

4. エレア派 (1)：パルメニデス

ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（導入）

5. エレア派 (2)：ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（教室で議論）

6. エレア派 (3)：「アキレスは亀に追いつけない」（議論の続き、ゼノンの意図）ゼノンの弁証論

エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1)：エンペドクレス

7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2)：アナクサゴラス、デモクリトス

ソフィステス（プロタゴラス）、弁論家（ゴルギアス）

8. ソクラテスとプラトンへのイントロ：ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか

ソクラテス (1)：プラトン『ソクラテスの弁明』を中心に

9. ソクラテス (2)：プラトン『ソクラテスの弁明』

・『クリトン』を中心に（続き）

10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】

プラトン (1)：『メノン』（探究のアポリア、想起説）など

11. プラトン (2)：『パイドン』（魂不死、イデア論）など

12. プラトン (3)：『国家』（ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係）など

13. プラトン (4)：『国家』（善のイデア）など

14. プラトン (5)：論じ残したこと

15. 授業のまとめ学期末試験

6. 成績評価方法：

学期末試験（持ち込み不可）のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションをしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する（試験を受けなくてよい）。

7. 教科書および参考書：

参考書：

加藤信朗『ギリシア哲学史』（東京大学出版会、1996 年）

内山勝利（責任編集）『哲学の歴史 1』（中央公論新社、2008 年）

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

9. その他：なし予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい（した場合、厳しく対応します）。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近代哲学史（5） ライブニッツとカント

2. Course Title (授業題目)：

Modern Philosophy 5: Leibniz and Kant

3. 授業の目的と概要：

ドイツのバロック期を代表する哲学者であるライブニッツは、近代では最大規模の形而上学を構想したが、その遺産はヴォルフやバウムガルテンによって通俗的に咀嚼されつつ、18 世紀の啓蒙期のドイツ講壇哲学へと受け継がれ、普及した。カントは、このライブニッツ＝ヴォルフ哲学の伝統に育まれて、しかしついにはそれを超克する哲学的努力のなかで、みずからの批判哲学を構築したのである。この講義では、ライブニッツ哲学の骨格を把握するとともに、その継承と超克という観点からカント哲学を考察する。

話題の一部はこれ以前の私の概論と重複するところもあるが、ここではライブニッツとカントという比較哲学的な観点から改めて論じる。なお、以下の授業内容は論点を列挙したもので、実際の授業ではいくらか絞って論じる予定である。

4. 学習の到達目標：

ライブニッツとカントの学説を学ぶとともに、両者の哲学的な対立構造を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ライブニッツからカントへ——ドイツ哲学史瞥見
- 2 感性と知性との区別——判明性から起源へ
- 3 空間と時間をめぐって——関係か形式か
- 4 不可識別者同一の原理と不一致対称物
- 5 モナドと内的なもの
- 6 述語の主語内在説と総合的判断
- 7 単純者と無限分割の問題
- 8 充足理由律とアプリアリな総合判断
- 9 意識知覚（aperception）と統覚（Apperzeption）
- 10 予定調和と認識の客観的実在性
- 11 自由をめぐって——可能世界論と絶対的自発性
- 12 神の存在証明——必然性の問題
- 13 完全性と自律——ドイツ啓蒙の倫理学
- 14 ライブニッツ派のカント批判——ピストリウスなど
- 15 エーバーハルトとの論争

6. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

プリントを配付する。その他の参考図書は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した哲学書をみずから読むことを試みてください。

9. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：荻原 理 (准教授)

講義コード：LB44201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

古代哲学史 (後篇)

2. Course Title (授業題目)：

History of Ancient Philosophy (Part 2)

3. 授業の目的と概要：

- ・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
- ・大講義室での講義だが、質問・意見を積極的に出してもらう (質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので)。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回 (以降) でもよい。
- ・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう (数名まで)。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、授業中、黒板を使いながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. 学習の到達目標：

- ・アリストテレス以降での西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
- ・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

アリストテレス (1)：形相と質料

2. アリストテレス (2)：形相と質料

3. アリストテレス (3)：始動因

4. アリストテレス (4)：行為の目的論

5. アリストテレス (5)：自然の目的論

6. アリストテレス (6)：オルガノン

7. アリストテレス (7)：芸術論など

8. ヘレニズム哲学 (1)：ヘレニズム哲学へのイントロ

ヘレニズム哲学 (2)：主にエピクロス派

9. ヘレニズム哲学 (3)：主にエピクロス派

10. ヘレニズム哲学 (4)：エピクロス派とストア派

11. ヘレニズム哲学 (5)：主にストア派

12. ヘレニズム哲学 (6)：主にストア派

13. ヘレニズム哲学 (7)：懐疑主義

14. 新プラトン主義

15. 授業のまとめ学期末試験

6. 成績評価方法：

学期末試験 (持ち込み不可) のみによる。ただし、授業中プレゼンテーションしてくれた人はプレゼンにより成績を評価する (試験を受けなくてよい)。

7. 教科書および参考書：

参考書：

内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 1』(中央公論新社、2008 年)

内山勝利 (責任編集)『哲学の歴史 2』(中央公論新社、2007 年)

A・A・ロング『ヘレニズム哲学』(京都大学学術出版会、2003 年)

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

(他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。)

9. その他：なし予備知識は特に必要ない。

授業中は私語のみならず、スマホいじり、内職等もしないで下さい (した場合、厳しく対応します)。

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 駿（非常勤講師）

講義コード：LB34501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代哲学の基礎 (1) 分析哲学と現象学

2. Course Title (授業題目)：

An Introduction to Contemporary Philosophy (Part 1): Analytic Philosophy and Phenomenology

3. 授業の目的と概要：

この授業では、様々な仕方で現代哲学の背景をかたちづけている 20 世紀の二つの哲学的伝統、分析哲学と現象学の基本的な考え方を概観し、その語彙や概念になじむとともに、その思考法がどのような問題に対して、どのような仕方で行き組んでいるか、また行き組もうかを検討することで、その基礎知識を身につける。

4. 学習の到達目標：

1. 分析哲学、現象学それぞれのイメージを持つことができ、自分なりの言葉で説明できる。
2. 〈体験 - 言葉 - 世界〉との関係をめぐって、どんな哲学的問題がありうるのかを理解することができ、また自分なりの考えを持つことができる。
3. ある問題・事柄について筋道を立てて一貫して考えることができ、またそれを説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的にスライドを用いた講義の形式で行なう。

1. イントロダクション (授業の概要などの説明)
2. フレーグ (1)：分析哲学の起源
3. フレーグ (2)：意味と意義について
4. ラッセル (1)：表示について
5. ラッセル (2)：見知りと記述
6. フッサール (1)：志向性と現象学
7. フッサール (2)：超越論的観念論
8. 1 から 7 までの振り返りと補遺
9. 指示の問題 (1)：可能世界論
10. 指示の問題 (2)：直接指示の理論
11. 指示の問題 (3)：その理論の帰結
12. 知覚の哲学 (1)：知覚の問題
13. 知覚の哲学 (2)：知覚の対象と内容
14. 知覚の哲学 (3)：知覚と知識
15. 総論

6. 成績評価方法：

授業への積極的な参加度 (30%)、期末レポート (70%) を評価する。

- － 前者は定期的にコメントペーパーなどを提出してもらい、それによって評価する。
- － 後者は「学習の到達目標」に記載の項目を基準に評価する。詳細は授業内で指示する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しない。参考書は適宜、授業内で当該授業の内容に合わせて指示する。

8. 授業時間外学習：

【予習】シラバスに記載されている人物やキーワードをあらかじめ自分で調べておくなど、授業で扱われる内容についてイメージを持っておく。

【復習】授業で扱われた内容についてノートをつくる、また指定された参考文献に目を通すなどして理解の定着を図る。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB35202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近現代哲学の諸問題（1）

2. Course Title（授業題目）：

Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

・現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。

20 世紀哲学は近代の人間観、自然観への問い返しを含んでいます。それはまた、学問とは何か、理性とは何かという問いとも結びついています。

この講義では、そうした問い返しの具体例として、「懐疑と相対主義」「自然と歴史」「自然科学と人文科学」「生活世界」「テキスト」などに関する近代の問題の所在と、20 世紀の大陸系、英米系の哲学におけるその扱いを検討していきます。

哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ。ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

コメントメーパにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今年の授業では毎回ワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

4. 学習の到達目標：

現代哲学の話題について理解し、簡単なものにせよ、自分なりの考えを持てるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 近代の自然観の成立
5. 近代的自然観への叛逆
6. 知識と歴史主義(1)
7. 知識と歴史主義(2)
8. 「歴史科学」の特質
9. 「精神科学」の特質
10. 生活世界と学問（1）
11. 生活世界と学問（2）
12. 異なるものの理解(1)
13. 異なるものの理解(2)
14. テキストと作者
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐藤 駿（非常勤講師）

講義コード：LB44501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代哲学の基礎 (2) プラグマティズムを中心に

2. Course Title (授業題目)：

An Introduction to Contemporary Philosophy (Part 2): Pragmatism and Related Topics

3. 授業の目的と概要：

この授業では、様々な仕方で現代哲学に影響を与えている哲学的伝統、プラグマティズムの基本的な考え方を概観し、その思想の主要特徴・傾向を理解するとともに、「プラグマティズム的」と呼びうる思想や哲学的発想をいくつか取り上げて、その広がりを確認しながら、現代哲学を理解するうえで鍵となる概念や基礎知識を身につける。

4. 学習の到達目標：

1. プラグマティズムについてそれなりのイメージを持ち、自分なりの言葉で説明できる。
2. 表象主義と反表象主義という二つの思考法の対立を理解し、その対立に対して自分なりの考えを持つことができる。
3. ある問題・事柄について筋道を立てて一貫して考えることができ、またそれを説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的にスライドを用いた講義の形式で行なう。

1. イントロダクション（授業の概要などの説明）
2. 出発点：規則をめぐるパラドックス
3. パースの哲学 (1)：記号論の構想
4. パースの哲学 (2)：プラグマティズムの格率
5. ジェイムズの哲学 (1)：プラグマティズムと全体論
6. ジェイムズの哲学 (2)：根本的経験論
7. デューイの表象主義批判
8. プラグマティズムと解釈学：理解と適用
9. 1 から 8 までの振り返りと補遺
10. 哲学と自然の鏡：ローティのメタ哲学
11. 〈理由の空間〉の哲学
12. 知覚の哲学, 再び
13. 表出主義とその展開 (1)：事実と規範
14. 表出主義とその展開 (2)：ローカル／グローバルな表出主義
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業への積極的な参加度 (30%), 期末レポート (70%) を評価する。

- － 前者は定期的にコメントペーパーなどを提出してもらい、それによって評価する。
- － 後者は「学習の到達目標」に記載の項目を基準に評価する。詳細は授業内で指示する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しない。参考書は適宜、授業内で当該授業の内容に合わせて指示する。

8. 授業時間外学習：

【予習】シラバスに記載されている人物やキーワードをあらかじめ自分で調べておくなど、授業で扱われる内容についてイメージを持っておく。

【復習】授業で扱われた内容についてノートをつくる、また指定された参考文献に目を通すなどして理解の定着を図る。

9. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB45206, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

現代哲学の諸問題 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：

- ・現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。
- ・20 世紀哲学は近代の人間観、自然観への問い返しを含んでいます。それはまた、学問とは何か、理性とは何かという問いとも結びついています。

この講義では、現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、世界、身体、他者、言語などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。コメントメーパにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今回の授業ではワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりなどでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

4. 学習の到達目標：

現代哲学の話題について理解し、簡単なものにせよ、自分なりの考えを持てるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ロゴスをめぐって
2. 生命と環境
3. 環境と世界
4. 身体という謎(1)
5. 身体という謎(2)
6. 身体という謎(3)
7. ロボットと認知
8. 他者という謎(1)
9. 他者という謎(2)
10. 他者という謎(3)
11. ロボットとのコミュニケーション
12. 身体と言語(1)
13. 身体と言語(2)
14. 生命と自然
15. まとめ

【必要に応じてテーマを一部差し替えるすることがあります】

6. 成績評価方法：

平常点 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。また随時授業中に紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

9. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：荻原 理 (准教授)

講義コード：LB33302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学研究のレッスン (2)

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy for Beginners: 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続きです。哲学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は「倫理学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の10回ほどは英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します(前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. 学習の到達目標：

(1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論できるようになる。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心から議論を展開できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

変更するかもしれません。

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

6. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

7. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

8. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジュメ報告を担当するさい、事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けて下さい。

9. その他：なし倫理学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回到、教員として相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：小松恵一（非常勤講師）

講義コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

自由意志と決定論——E. Tugendhat の人間学（1）

2. Course Title (授業題目)：

Free Will and Determinism---Anthropology of E. Tugendhat(1)

3. 授業の目的と概要：

Tugendhat は、ベルリン自由大学で教えていた哲学者である。彼は、晩年になって形而上学ではなく人間学を哲学の基盤に据えるべきであると主張している。

1. 彼の人間学の個別テーマの一つ、自由意志に関する論文を精読することが第一の目標である。(Ernst Tugendhat, Willensfreiheit und Determinismus, in: "Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S. 57 ~ S. 73)

2. そのことによって、哲学的思考の過程を追跡できるようにする。

3. さらに、ドイツ語で哲学論文を読むことに親しむ。ドイツ語論文によく登場する表現を会得する。

4. その際、一文一文訳読してもらう。

5. 問題、理解の難しい箇所があっても、教師はヒントを与えるが、できるだけ学生自身が解決するようにする。

6. 参考にするべき他の哲学者の文章を課題として読んできてもらう。

4. 学習の到達目標：

1. Tugendhat の自由意志論を理解する。

2. 関連するアリストテレス、ロック、カントなどの倫理学の立場と対比することができる。

2. ドイツ語の哲学論文を読めるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 ドイツ語で哲学論文を読む際に注意すべきこと。外国語で論文を読む意味について。

2. 意志自由をどのように理解するか。Das Problem der Willensfreiheit ist nicht, ob sie gibt, sondern wie sie zu verstehen ist. (S. 57)

3. 意志の自由の問題と責任 Das wirkliche Problem der Willensfreiheit ist das der Verantwortlichkeit (S. 57~S. 58)

4. 感覚的な欲求と理性的な欲求。アリストテレスのデ・アニマを参照する sinnliche und rationale Wünsche (Aristoteles, De Anima III, 10)

5. 純粹理性批判における意志論

動物の意志と人間の意志 Gegenüberstellung des menschlichen Wollens gegenüber dem tierischen Wollen (Kant, Kritik der reinen Vernunft, B562, 830)

6. 自分の欲求の充足を控えられるということ ロックの議論 die Befriedigung der eigenen Wünsche "suspendieren" können (John Locke, Essay concerning Human Understanding Chapter 21, §48)

7. 自由と強制 es ist ohne weiteres klar, was es heißen soll, dass die Person selbst etwas will. Freiheit und Zwang (S. 59~60)

8. より良きこと Ich und der Bezug auf etwas, was man für gut hält.

9. 反省的意志と時間意識との関係 Zusammenhang des reflexiven Wollens mit der Zeitbewußtsein

10. 反省的意志の活動領域の二つのタイプ Spielräumen des reflexiven Wollens---zwei Typen

11. 反省的意志の活動領域のはじめの二段階 プルーデンスと良き生 erste zwei Stufen der Spielräumen des reflexiven Wollens, Prudenz und gutes Leben (S. 61)

12. 注釈 5 の議論 Anmerkung 5 (about free agency discussion of Watson in reference to Freud) (S. 62)

13. 反省的意志の活動領域の次の二段階 道徳と反省的意識 andere zwei Stufen der Spielräumen des reflexiven Wollens, Moral und Meta-Ebene (S. 63)

14. 反省的意志と真なるものに関する理論的考究との関連 Zusammenhang des reflexiven Wollens mit der theoretische Überlegung über das Wahre (S. 63~64)

15. 注釈 6 の議論 Anmerkung 6. 反省的意志の活動領域の 4 段階の関係について (S. 64)

6. 成績評価方法：

授業における訳読の正確さ、課題をどの程度こなしているかによって評価します。(試験はありません)。

7. 教科書および参考書：

Ernst Tugendhat, Willensfreiheit und Determinismus, in: "Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S. 57 ~ S. 73)

8. 授業時間外学習：

予習は必須です。

必要に応じて、授業で発表してもらう課題が提起されます。

Students have to read the text before the class carefully.

9. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆, 城戸 淳 (教授)

講義コード：LB43302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

哲学研究のレッスン(2)

2. Course Title (授業題目)：

Philosophy for Beginners 2

3. 授業の目的と概要：

この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。

4. 学習の到達目標：

- (1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
- (2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む(1)
3. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む(2)
4. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む(3)
5. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む(4)
6. 海外の倫理学教科書からの抜粋を読む(5)
7. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (1) (同レベルのテキストに変更の可能性があります)
8. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (2)
9. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (3)
10. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (4)
11. Art as Ideal (Kenneth Clark, Jennifer Jeffers) (5)
12. 発表と討論 (1)
13. 発表と討論 (2)
14. 発表と討論 (3)
15. 発表と討論 (4)

6. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。

7. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。参考書は演習内で指示します。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み理解に努め、授業のあとは振り返ってテキストの理解を深めてください。

報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にしてください。

9. その他：なし具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。(倫理学基礎講読と合併で授業します)

哲学専修の 2 年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：小松恵一（非常勤講師）

講義コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

自由意志と決定論——E. Tugendhat の人間学(2)

2. Course Title (授業題目)：

Free Will and Determinism---Anthropology of E. Tugendhat(2)

3. 授業の目的と概要：

前期と同様ですが、一段階上位のレベルを目指します。

4. 学習の到達目標：

前期と同様

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 行為の自由と決定論 Determinismus in der Handlungsfreiheit (S.65)
 2. 自由意志と因果性の両立可能性 チザムの考え方 Kompatibilismus des freien Willens und des Determinismus, Chisholm und Kritik an ihm(S.66) Cf. R.Chisholm, The Lindlay Lecture(University of Kansas)1964.
 3. Kompatibilismus を擁護するための準備、「わたしと発話すること」〈Ich-Sagen〉 (S.67)
 4. その続き 〈Ich-Sagen〉(Fortsetzung) (S.68)
 5. 「わたしは、違うこともできたはずだ」という非現実の言い方。〈Ich hätte auch anders können〉. (S.69)
 6. 「根拠の問いの中断」と決定論の両立 〈Warumstop〉 und Determinismus (S.69 ~ 70)
 7. 注釈 11 の議論。自由と自然因果性との関係に関するカントの考え方 Anmerkung 11 Kant (S.71)
 8. 「わたし」は、客観的な言語に翻訳可能かどうか wir stehen im "ich"-Sagen in einer Perspektive, die überhaupt nicht in eine objektive Sprache übersetzbar ist. (S.71)
 9. 両立可能性の正しい理解 recht verstandener Kompatibilismus(S.71)
 10. まとめ。Kompatibilismus の擁護。非難という現象 Über das Phänomen des Vorwurfs(S.72)
 11. 結論。eine Person ist nur in dem Maße verantwortlich zu machen, in dem sie wirklich die Fähigkeit hat, ihre unmittelbaren Wünsche zu suspendieren und nach Gründen zu handeln.
 12. 補足論文。”わたしは違うこともできたはずだ”という表現と「責任」を語るということ。非現実仮定に対する二つの立場。Austins "iffy"。(S.74) この補足を終わりまで読む時間はないかもしれないができるだけ。
 13. 非現実仮定と wenn-Satz (S.75)
 14. 責任概念の明確化
 15. 総括
6. 成績評価方法：
- 前期と同様
7. 教科書および参考書：
- Ernst Tugendhat, Willensfreiheit und Determinismus, in:"Anthropologie statt Metaphysik", 2te Auflage, 2010, S.57 ~S.73)の後半部分。それに、Nachtrag2006: Über den Ausdruck "ich hätte auch anders können" und über die Rede von "Verantwortlichkeit".
8. 授業時間外学習：
- 前期と同様
9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：城戸 淳, 直江 清隆, 荻原 理 (教授)

講義コード：LB52502, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

比較哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Comparative Philosophy

3. 授業の目的と概要：

比較哲学とは、異なった文化や伝統に基づく諸哲学を比較すること、あるいはその比較に基づく哲学である。とりわけ、西洋哲学と東洋哲学との比較に基づいて、東西の思想的な異同を探求し、世界的な哲学を模索することが課題となることが多い。

この講義では、客員准教授のキアラ・ロbbiano (Chiara Robbiano) 氏 (ユトレヒト大学) を講師に迎え、数回の講義をしてもらう。その後は、哲学専攻分野の教員によるリレー講義によって、多彩な観点から比較哲学の方法と実践を示す。

4. 学習の到達目標：

比較哲学の方法と実例を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 問題提起と導入
- 2 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 1 (Robbiano)
- 3 復習と今後の準備
- 4 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 2 (Robbiano)
- 5 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 3 (Robbiano)
- 6 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Discussion (Robbiano)
- 7 比較哲学 古代編 1 (荻原)
- 8 比較哲学 古代編 2 (荻原)
- 9 比較哲学 古代編 3 (荻原)
- 10 啓蒙と中国哲学 (城戸)
- 11 カント、ショーペンハウアーとインド哲学 (城戸)
- 12 西田幾多郎とギリシア哲学 (城戸)
- 13 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立 (1) (直江清隆)
- 14 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立 (2) (直江清隆)
- 15 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立 (3) (直江清隆)

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

紹介した文献等を各自で読むこと。期末レポートではみずから課題を設定して、比較哲学の実践を提示すること。

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：伊藤 春樹 (非常勤講師)

講義コード：LB54403, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

こころと意識の分析哲学

2. Course Title (授業題目)：

Analytical Philosophy of Mind and Consciousness

3. 授業の目的と概要：

こころは、古代ギリシア以来、つねに哲学の根本問題であった。意識は近代哲学の根幹をなしている。現代哲学の典型である分析哲学が、これらの伝統的な問題をどのように扱うか、それを具体的に示すことがこの授業の目的である。分析哲学は、19 世紀の後半から 20 世紀の前半にかけて面目を一新することになる新しい論理学にもとづいた言語哲学と、これまた 19 世紀の後半から 20 世紀の前半にかけて生じた物理学や生物学における大変革に刺激された新しい唯物論 (物理主義) とからなっている。しかし、こころや意識をめぐる哲学的問題は、言語哲学や物理主義を単純にあてはめて簡単に解けるような生易しいものではない。なんとすれば、こころと意識の問題を解くということは、宇宙における人間の位置を確定するという、深く形而上学的な課題を避けては通れないからである。こころや意識の問題と格闘することによって、分析哲学もまた、様々な点で乗り越えられていかねばならない。それを通じて、分析哲学は、まさに哲学そのものとなる。それゆえ、この授業では、これらの大問題を前にして、分析哲学のどのような発想がどのように揚棄されることになるか、それを示すことがもうひとつの目的となる。

4. 学習の到達目標：

分析哲学とはどのように問題を立て、どのように解いていくのか、体験できる。具体的には、言語哲学がこころの問題についてどのように有効なのか、物理主義 (自然主義) とは、どのように考えることなのか理解できるようになる。それを通じて、現代において哲学するとはどういうことなのか、明確なイメージを獲得できることになる。さらに、こころと意識のありかたについて、ひとつの明確な解答を手にすることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: 分析哲学とはどのような哲学態度か。
- 2: 意識の哲学 (1) : 伝統的に哲学は意識をどのように捉らえてきたか。
- 3: 意識の哲学 (2) : 分析哲学は意識をどのように捉らえてきたか。
- 4: 意識の哲学 (3) : これまでの物理主義はどこが間違っていたか。
- 5: 意識の哲学 (4) : 汎心論の重要性和限界。
- 6: 意識の哲学 (5) : 意識はどこに生じるか。
- 7: 意識の哲学 (6) : 「機械には機械なりの意識がある」はどこが間違っているか。
- 8: 意識の哲学 (7) : 「複雑になれば意識が生じる」はどこが間違っているか。
- 9: こころの哲学 (1) : こころって何？
- 10: こころの哲学 (2) : こころ・精神・魂
- 11: こころの哲学 (3) : なぜ「こころって何？」と訊ねないのか。
- 12: こころの哲学 (4) : こころが何か誰も知らない。
- 13: こころの哲学 (5) : こころと卓越性
- 14: こころの哲学 (6) : 「こころ」のアナフォリックな性質
- 15: こころの哲学 (7) : こころと二元論

6. 成績評価方法：

授業内容に関連したレポートを提出してもらい、それに基づいて採点する。採点基準は、授業内容をどれだけ正確に理解しているか、どれだけ根底的な批判を展開できているかで判定する。

7. 教科書および参考書：

必用な文献・資料はそのつど紹介し、また、配布するなりダウンロードしてくることを指示するので、教科書なるものは使用しない。〈心の哲学〉全般については、すこし難しいかもしれないが、信原幸弘編『シリーズ心の哲学Ⅰ～Ⅲ』(勁草書房)を参考書として指定しておく。意識については、デネットやチャルマーズや信原の諸著が、分析哲学における扱いをみるのに参考となる。

8. 授業時間外学習：

教材として配布される資料 (担当教員が書いた論文) を前もって読んでおくこと。そしてなにより重要なのは、資料として渡された論文に対して、激烈で徹底的な批判を考えてみること。

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：齋藤 直樹 (非常勤講師)

講義コード：LB62407, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ニーチェの「自然主義」

2. Course Title (授業題目)：

Nietzsche's Naturalism

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、「自然」あるいは「自然的身体衝動」の存在論的／認識論的基底性を論じるニーチェの一連の思想を主題化し、彼が用いる「自然」概念の多義性をその成立過程に即しつつ分析しながら、ニーチェの思索の歩みの全体を「自然主義」の哲学として体系的に理解することにある。そのうえで、二〇世紀後半以降、哲学的言説の全体を新たな仕方で構造化している「自然主義」と「反自然主義」との対立を視野に入れながら、ニーチェ独自の“自然主義”が持つ思想的ポテンシャルを現代的な文脈の中で評価することを試みる。

4. 学習の到達目標：

ニーチェの思索の全体を「自然主義」の哲学として体系的に理解するとともに、ニーチェの哲学の現代的な可能性を自分なりに見出すことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ニーチェ哲学の全体像—伝統的解釈における体系的理解の試み
2. 「初期」思想圏の代表的主張
3. 「中期」思想圏の代表的主張
4. 「後期」思想圏の代表的主張
5. 初期思想圏における「自然主義」と「ロマン主義」の相剋
6. 『悲劇の誕生』の成立過程における「自然」概念の多義性
7. 「バーゼル講演原稿」における「ディオニュソス的なもの」
8. 「マデラーナー原稿」における「ディオニュソス的なもの」
9. 初期思想の展開と「ディオニュソス的象徴法」
10. 『反時代的考察』における「歴史主義」批判（１）
11. 『反時代的考察』における「歴史主義」批判（２）
12. 中期思想圏における「自然科学主義」の概要
13. 後期思想圏における「自然主義」と「歴史主義」の統合（１）
14. 後期思想圏における「自然主義」と「歴史主義」の統合（２）
15. ニーチェの「自然主義」の射程

6. 成績評価方法：

学期末のレポートで評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配布する。参考書については、授業中に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で取り上げるニーチェの著作を、あらかじめないしは講義の後で、そのつど読んでみることを。

9. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), **単位数：**2

担当教員：染谷 昌義 (非常勤講師)

講義コード：LB98820, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

精神の生態学-生態学的アプローチの身体論・生命論・環境論

2. Course Title (授業題目)：

Steps to an Ecology of Mind--Philosophy of the Ecological Approach to Perception and Action

3. 授業の目的と概要：

アメリカの知覚心理学者 James J. Gibson (1904-1979) の創始した「認識と行動への生態学的アプローチ」のエッセンスを解説し、そのキー概念と方法論を武器に生態学的観点からの心の哲学を検討する。

17世紀のデカルト以降、西洋哲学の伝統では、精神や心のはたらきは、思考や知性、意志に限定され、周囲のあり方とは独立して「内部」から発揮される能動的なはたらきと見なされてきた。しかし、今やこの伝統は崩れつつある。今世紀に入り心理学者や認知科学者は、心のはたらきは身体や環境と切り離しては理解できないことを真に認めるようになった。こうした潮流は広く身体性認知科学と呼ばれ、本講義で提示する「生態学的アプローチ」もその流れに連なる。

生態学的アプローチのもとでは、認識や行動だけでなく生命活動すべてが周囲と系をなして営まれるサイコロジカルな(心理的な)活動と見なされる。生物が誕生し、栄養を摂取し、成長発達し、さまざまな行動スキルを獲得し、周囲の状況を知覚し、同種の仲間たちとコミュニケーションをとり、自らの子孫を残し、周囲に棲家や道やゴミ捨て場をつくり、時間を区切って採餌や休息や労働や睡眠の時間割をつくる・・・これらすべては環境の資源を利用した生態学的な活動なのである。

心のはたらきの本性は生態学的であるという発想に立つとき、哲学的思考にもたらされる転換とブレークスルーを、授業では大胆に提示したい。おそらく、現象学的知覚論・身体論、心の哲学、知覚の哲学、行為の哲学、生物学の哲学のチャンポンになる予定である。

4. 学習の到達目標：

- 1) 認識と行動に対する生態学的アプローチのエッセンス (特に、情報にもとづく知覚説、アフォーダンスの理論) を理解する。
- 2) 哲学的認識論と行為論の基本問題を理解する。
- 3) 生態学的発想に立った思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション：知覚経験と行動への伝統的接近法 (方法論的独我論) とその問題
- 2) 心の科学のブレークスルー：4E (embodied, embedded, enactive, extended)、身体性
- 3) 拡張認知仮説とエナクティヴィズムについて
- 4) 生態学的環境論：メゾスコピックな環境存在論、情報存在論
- 5) 生態学的認識論① 直接知覚説、情報に基づく知覚論
- 6) 生態学的認識論② 遮蔽知覚、自己知覚、視覚性運動制御
- 7) アフォーダンスの理論、知覚認識の資源としての情報と行動資源としてのアフォーダンス
- 8) 生態学的身体論① 知覚システム論、シナジー、知覚行為循環
- 9) 生態学的身体論② 行為の意図、探索する身体
- 10) 知覚に表象はいらないのか？ハングリー問題との対決
- 11) 知覚は誤らないのか？知覚錯誤への対応
- 12) 動物の存在しない環境にアフォーダンスは存在するのか？：アフォーダンスの実在性
- 13) 記号や言葉の知覚に高次認知の介入はないのか？：間接知覚の理論
- 14) 生態学的自然主義：アリストテレスの自然学と心理学の復権
- 15) まとめと総復習

授業計画の説明

おおまかに次の三段階で講義を展開する。

第一段階 導入部 (1～3回)：主として心の科学や哲学において起こった4E革命 (embodied 身体性、embedded 周囲埋め込み、enactive 行為にもとづく意味構成、extended 拡張性) の解説をもとに、それらとの違いによって生態学的アプローチの特徴づけを行う。

第二段階 展開部 (4～9回)：生態学的知覚論、運動論、環境論をわかりやすく解説する。この部分が理論的肝となる。

第三段階 応用部 (10～15回)：生態学的アプローチがもたらす、認識論、行為論、存在論 (形而上学) へのインパクトと諸問題を検討する。

6. 成績評価方法：

レポート 70%

平常点 (授業への参加度・質疑・リアクションペーパー) 30%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書

染谷昌義 (2017) 『知覚経験の生態学』勁草書房、5,616 円

染谷昌義・野中哲士・細田直哉・佐々木正人（2018）『アフォーダンスと身体』金子書房、2,484 円

J. J. ギブソン（1986）『生態学的視覚論-ヒトの知覚世界を探る』古崎敬ほか訳、サイエンス社、4,509 円

J. J. ギブソン（2011）『生態学的知覚システム-完成をとらえなおす』佐々木正人ほか訳、東京大学出版会、5,184 円

J. J. ギブソン（2011）『視覚ワールドの知覚』東山篤規ほか

8. 授業時間外学習：

予習：前回の授業で配布された資料を読み、それまでなされた講義を想起しておく。

復習：資料とノートを読み返し、疑問点を出す。授業内で紹介された参考書（講義内容を補足説明するもの）を読む。

9. その他：なし質問や相談のある方は、someyate【アットマーク】takachiho.ac.jp まで（アットマークは@に）

予備知識は必要ない。ただし、心の哲学や行為の哲学、現象学、身体論といった分野に関心がある学生には、履修をお勧めしたい。それまでに講義した内容を前提として各回の講義は展開していくため、欠席した場合は資料を入手して読み内容を確認しておく。可能であれば他の受講学生から欠席回の情報を受け取っておく。

リアクションペーパーにより学生の理解度を確認しながら授業を行い、必要に応じて進度を調整する。

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆 (教授)

講義コード：LB55301, **科目ナンバリング：**LHM-PHI306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。則ち、人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められている。この授業ではこうした問題に取り組むための理論と具体例とを取り扱う。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

今学期は、ドイツ語圏での生命、環境倫理学を参照しつつ、

- 1) 尊厳概念の諸相 (生命、環境、技術など)
- 2) 科学／技術の現在と人間の尊厳の再検討

について順に論じ、哲学的・倫理学的問題の所在を明らかにする。(講義となっているが、必要に応じて、大学院生による報告も織り交ぜることを予定している)。

1. はじめに：尊厳という概念はいかなる意味か
2. 尊厳という概念は有効か (生命倫理における人間の尊厳) (1)
3. 尊厳という概念は有効か (1 人称と 2 人称) (2)
4. ヒト胚と尊厳
5. ターミナルケアと人間の自律 (1)
6. ターミナルケアと人間の自律 (2)
7. 尊厳死 (1)
8. 尊厳死 (2)
9. 障害と尊厳
10. 自然の価値 (1)
11. 自然の価値 (2)
12. ロボットと人間の尊厳 (1)
13. ロボットと人間の尊厳 (2)
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)

【必要に応じて内容を差し替えアップデートを図ることがある】

6. 成績評価方法：

レポート 80% 授業への参加 20%

7. 教科書および参考書：

教材は必要に応じてコピーを配布します。

参考書：ビルンバッハー『生命倫理学』2018、ダーウォル『二人称的観点の倫理学』、玉井真理子・大谷いずみ編『生命倫理』有斐閣。

8. 授業時間外学習：

出席して討議に参加するように努めること。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB51307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

プラトン『パルメニデス』を読む (1)

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's PARMENIDES, 1

3. 授業の目的と概要：

プラトン『パルメニデス』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。

4. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1回に8行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は1回にOCTの1ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

とくに第三人間論についての二次文献を適宜参照、議論する。

6. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

7. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

9. その他：なし古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

クワイン「二つのドグマ」とその周辺

2. Course Title (授業題目)：

Quine's 'Two Dogmas' etc.

3. 授業の目的と概要：

分析哲学・科学哲学の古典的論文である、W. v. O. クワインの「経験論の二つのドグマ」、およびこれに対する古典的応答である、P. グライスと P. F. ストロースンの「一つのドグマを擁護して」を原語（英語）で精読し、分析哲学・科学哲学の基礎概念や主要論点のいくつかを学び、議論の方法に慣れる。

4. 学習の到達目標：

クワインの「経験論の二つのドグマ」、およびグライス&ストロースンの「一つのドグマを擁護して」の議論を、全体としても、細部についても正確に説明できるようになる。そこに登場する重要な用語を正確に使用できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

まず「経験論の二つのドグマ」を、次に「一つのドグマを擁護して」を、原語（英語）で丹念に読んでいく。あらかじめ担当者を決め、担当箇所を割り当てる。担当者は担当箇所の邦訳と内容要約とを準備しコピーをとり、授業中に配布する。授業中、まず担当者が邦訳と内容要約を読み上げ、皆で、訳と要約について議論する。次に、内容についての立ち入った議論に移る。

第1回：イントロ

第2回：「経験論の二つのドグマ」第1節前半

第3回：同 第1節後半

第4回：同 第2節

第5回：同 第3節

第6回：同 第4節

第7回：同 第5節

第8回：同 第6節

第9回：「一つのドグマを擁護して」 (1)

第10回：同 (2)

第11回：同 (3)

第12回：同 (4)

第13回：同 (5)

第14回：同 (6)

第15回：全体討論

6. 成績評価方法：

授業中のパフォーマンス

7. 教科書および参考書：

授業初回に指定

8. 授業時間外学習：

担当者でなくても次回に扱う箇所を読み、議論の準備をする

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森 一郎（兼務教員）

講義コード：LB52406, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

アーレント『革命について』第6章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 6

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』『活動的生涯』に次ぐ第二の哲学的名著であり、21世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版（1963年）とドイツ語版（1965年）との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める（ドイツ語版からの日本語訳を配布予定）。今学期は、第6章「革命の伝統と革命精神」の後半を読んでゆく。

4. 学習の到達目標：

- ・20世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版の Hannah Arendt, Über die Revolution の日本語訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版 On Revolution とその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

- 第1回 ガイダンスとイントロダクション——『革命について』を今日読むということ
- 第2回 第6章第3節（その1）——ジェファソンの思い入れ
- 第3回 第6章第3節（その2）——革命精神を救うもの
- 第4回 第6章第3節（その3）と第4節（その1）——新しい政治形態
- 第5回 第6章第4節（その2）——マルクスとレーニン
- 第6回 第6章第4節（その3）——職業的革命家
- 第7回 第6章第4節（その4）——評議会の自発的生起
- 第8回 第6章第4節（その5）——政党制の問題
- 第9回 第6章第5節（その1）——民主主義、福祉国家
- 第10回 第6章第5節（その2）——政治と管理の区別
- 第11回 第6章第5節（その3）——政治的エリート
- 第12回 第6章第5節（その4）——貴族主義的共和制
- 第13回 第6章第5節（その5）——ルネ・シャールとソボクレス
- 第14回 革命精神のゆくえ——アーレントのペシミズム？
- 第15回 まとめ——『革命について』と『革命論』

6. 成績評価方法：

平常点（出席は当然とし、発表担当、議論への参加など）を60%、学期末レポートを40%として総合評価する。

7. 教科書および参考書：

- ・ドイツ語版テキストの日本語訳をコピーして配布し、これを授業の主要テキストとする。
- ・原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。
Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper, 1965/ Hannah Arendt, On Revolution, Faber, 1963
- ・英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。
ハンナ・アーレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫、1995

8. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB53503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示する超越論的演繹論、カテゴリーを時間化する図式論を承けて、アプリアリな総合判断(原則)を体系的に定式化するところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は「経験の類推」を、後期は引き続き「経験の類推」から、さらに「経験的思考一般の要請」へと進む予定である(範囲は進捗状況に応じて変わる)。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 (承前) 知覚の予料
- 3 3 経験の類推 (1)
- 4 3 経験の類推 (2)
- 5 3 経験の類推 (3)
- 6 A 第一類推 (1)
- 7 A 第一類推 (2)
- 8 A 第一類推 (3)
- 9 B 第二類推 (1)
- 10 B 第二類推 (2)
- 11 B 第二類推 (3)
- 12 B 第二類推 (4)
- 13 B 第二類推 (5)
- 14 C 第三類推 (1)
- 15 C 第三類推 (2)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なしドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB55502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「改造論文」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's Text

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、現象学の基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・現象学のテキストで読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

フッサールの『改造』論文(1922-24)は、田辺元の求めに応じて日本の雑誌『改造』に寄せられたものです。フッサールの後期の哲学、文化論に親しむ格好の材料であるとともに、日本哲学の生成に対する現象学の影響や間文化的な観点からしてみても貴重な文献です。全5回のうち、3回分だけが日本語に翻訳されて雑誌に掲載され、残り2回分は遺稿として残されています。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この論文をドイツ語の原文で読むことにします。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照しても大丈夫です。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進めます。

必要に応じて、『間主観性の現象学 2』、「アムステルダム講演」など周辺の文献を参照したり、大学院生に紹介してもらったりすることもあります。

- 1, イントロダクション 現象学とは
- 2, 『改造』と日本哲学の紹介
- 3, 「改造論文」読解 (1)
- 4, 「改造論文」読解 (2)
- 5, 「改造論文」読解 (3)
- 6, 「改造論文」読解 (4)
- 7, 「改造論文」読解 (5)
- 8, 「改造論文」読解 (6)
- 9, 「改造論文」読解 (7)
- 10, 「改造論文」読解 (8)
- 11, 「改造論文」読解 (9)
- 12, 「改造論文」読解 (10)
- 13, 「改造論文」読解 (11)
- 14, 「改造論文」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Aufsätze und Vorträge, (Husserliana XXVII), 1989,
テキストおよび邦訳などは、授業時に紹介、配布する。

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。

テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学についての復習の時間をとる

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LB61307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

プラトン『パルメニデス』を読む(2)

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Plato's PARMENIDES (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に読み進めたところから引き続き、プラトン『パルメニデス』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。

4. 学習の到達目標：

今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

『パルメニデス』をできるだけ読み進める。ペースはだんだん上げていく。

6. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

7. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

次回に読む箇所の予習

9. その他：なし古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB62208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

因果性の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the philosophical considerations on causality

3. 授業の目的と概要：

因果性はヒューム以来の哲学的問題である。この問題は、狭義の哲学的問題であるだけでなく、数物科学、生命科学、社会科学などにおいて重要な位置を占めている。この演習では、現在の科学哲学における因果性の問題についての議論を取りあげ、検討する。

4. 学習の到達目標：

- ・因果性がどのようなものであるかについて、哲学的問題の所在を理解し、自分なりの考えをもてるようになる。
- ・因果性についての日本語、英語の論文を理解できる力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

マンフォード、アンユム『因果性』を手がかりに、関連する論文を取りあげ、議論する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 科学における説明
- 3, 因果性という問題
- 4, 因果性と規則性
- 5, 原因は結果に先行するか
- 6, 原因と結果の必然性
- 7, 反事実的条件における依存性
- 8, 物理主義
- 9, 因果性に関する多元主義はあるか
- 10, 因果性のもっとも基礎的か
- 11, 因果性と傾向性(disposition)
- 12, 因果的説明と解釈的理解
- 13, 因果性と統計
- 14, シミュレーションという問題
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（報告を含む） 80% 授業への参加（討論） 20%

7. 教科書および参考書：

マンフォード、アンユム『因果性』岩波書店。授業の初めに取りあげる論文の一覧を提示する。

参考書 オカーシャ『科学哲学』岩波書店、ローゼンバーグ『科学哲学』春秋社、須藤靖・伊勢田哲治『科学を語るとはどのようなことか』河出ブックスほか。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB63504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カント『純粋理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粋理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示する超越論的演繹論、カテゴリーを時間化する図式論を承けて、アプリアリな総合判断(原則)を体系的に定式化するところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は「経験の類推」を、後期は引き続き「経験の類推」から、さらに「経験的思考一般の要請」へと進む予定である(範囲は進捗状況に応じて変わる)。また、進行に応じて、関連する各種コメンタリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 (承前) C 第三類推(3)
- 3 4 経験的思考一般の要請
- 4 4 経験的思考一般の要請(可能性 1)
- 5 4 経験的思考一般の要請(可能性 2)
- 6 4 経験的思考一般の要請(現実性)
- 7 観念論論駁(1)
- 8 観念論論駁(2)
- 9 観念論論駁(3)
- 10 4 経験的思考一般の要請(必然性 1)
- 11 4 経験的思考一般の要請(必然性 2)
- 12 4 経験的思考一般の要請(必然性 3)
- 13 原則の体系への一般的註解(1)
- 14 原則の体系への一般的註解(2)
- 15 原則の体系への一般的註解(3)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なしドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

自由と行為の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Philosophical Problems of Free Will and Action

3. 授業の目的と概要：

人間の自由意志と行為をめぐる哲学的な諸問題について共同で探求する。

演習では、各回の担当者が各自の問題関心に応じて課題を設定し、文献を読み、報告し、討議する。課題は、現代哲学を含めた哲学史上の論点から選ぶ。

受講生の人数や準備状況に応じて、はじめの数回は共通のテキストの読解に当てる場合もある（初回に課題やスケジュール等を定める）。

4. 学習の到達目標：

人間の自由意志と行為をめぐる哲学的な諸問題について読み、考え、発表し、討議する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. プラトンにおけるイデアと行為
2. アリストテレスにおけるアクラシアの問題
3. アウグスティヌスにおける自由と摂理
4. トマス・アキナスにおける知性と意志
5. ルターの奴隸意志論
6. デカルトにおける自発性と無差別
7. ホッブズにおける自由と法
8. ライプニッツの可能世界論
9. ロックとヒュームの両立論
10. カントにおける自由と自律
11. ヘーゲルの行為論
12. ヴェーバーの社会的行為論
13. ウィトゲンシュタインとアンスコム の行為論
14. デイヴィッドソンの行為の因果説
15. フランクファートの事例

(以上の授業内容と進度はありうるテーマの例を列挙したものであって、実際の計画ではない。)

6. 成績評価方法：

発表、討議、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

授業中に紹介します。

8. 授業時間外学習：

自分の発表の準備はもちろん必須ですが、その他の回にも予習と復習を繰り返すことで理解が深まることでしょう。

9. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB65502, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フッサール「改造論文」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's Text

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・現象学のテキストを読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、フッサールの『改造』論文(1922-24)を読みます。

フッサールの『改造』論文(1922-24)は、田辺元の求めに応じて日本の雑誌『改造』に寄せられたものです。フッサールの後期の哲学、文化論に親しむ格好の材料であるとともに、日本哲学の生成に対する現象学の影響や間文化的な観点からしてみても貴重な文献です。全5回のうち、3回分だけが日本語に翻訳されて雑誌に掲載され、残り2回分は遺稿として残されています。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この論文をドイツ語の原文で読むことにします。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照しても大丈夫です。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進めます。

必要に応じて、『間主観性の現象学 2』、「アムステルダム講演」など周辺の文献を参照したり、大学院生に紹介してもらったりすることもあります。

- 1, 前期の復習
- 2, 『改造』フッサール中期・後期の哲学
- 3, 「改造論文」読解 (1)
- 4, 「改造論文」読解 (2)
- 5, 「改造論文」読解 (3)
- 6, 「改造論文」読解 (4)
- 7, 「改造論文」読解 (5)
- 8, 「改造論文」読解 (6)
- 9, 「改造論文」読解 (7)
- 10, 「改造論文」読解 (8)
- 11, 「改造論文」読解 (9)
- 12, 「改造論文」読解 (10)
- 13, 「改造論文」読解 (11)
- 14, 「改造論文」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Aufsätze und Vorträge, (Husserliana XXVII), 1989,

テキストおよび邦訳などは、授業時に紹介、配布する。

参考書は多数あるので開講時に提示する。

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。

テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学についての復習の時間をとる。

9. その他：なし

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LB65303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

エイジングの時代の医療・技術

2. Course Title (授業題目)：

Medicine and technology in the era of aging

3. 授業の目的と概要：

高齢化の進む先進校社会において、医療や技術には新たな対応が求められている。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、苦痛、エンハンスメントなどについて考えていくことにする。

4. 学習の到達目標：

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとする。論文は、John K. Davis New Methuselahs, 2018, P. Lin et al. (ed.) Robot ethics 2.9, 2018, A. Feenberg, Technology, modernity, and democracy, 2018 などから適宜選択するが、日本語の論文も取り上げる。じっくり討論することに力点を置く。

1. ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)

2. 担当者による報告と内容についての議論 ((2)、(4)、(5)、(8)は各2回を予定)

(1) 長寿化の倫理とは

(2) 長寿化と平等、正義

(3) 長寿化と権利をめぐる葛藤

(4) 長寿化と豊かさ

(5) エンハンスメントへに対する恐れ

(6) 高齢化社会と世代間倫理

(7) ロボットはケアすることはできるか

(8) ロボットに対する信頼

(9) 技術のパラドクス

3. まとめ

(参加者の関心に応じて扱うトピックスを若干変更することがある)

6. 成績評価方法：

レポート(訳読の担当などを含む)60% 授業全体への貢献度 40%

7. 教科書および参考書：

開講時に論文一覧を配布し、プリントはそのつど配布する。

そのほかの参考文献については適宜授業内に指示する。

8. 授業時間外学習：

担当の回でなくとも予習すること、討議をもとに再度自分で考え直すこと。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。

9. その他：なし